

I 急病のときの対応

10. 下痢があるとき

家庭での処置

1. 温かくして安静にする。特に腹部を温かくする。
2. 水分補給をする。イオン飲料などで冷たい飲み物は避ける。
3. 下痢止めなどは安易に与えない。

その後の対応



レベル1 家庭で経過をみる、又は翌日に病院受診

腹痛がひどくない。機嫌もよく水分を取れている。



レベル2 その時点で病院受診

下血(血便)や激しい腹痛がある。吐き気が強かったり嘔吐で水分が取れない。高熱を伴う。家族内など周囲の人などに同様の症状があり食中毒が疑われる。



レベル3 緊急に病院受診、救急車要請

脱水症状が強い。

- * 脱水症状(重度): 意識がはっきりしない。反応がにぶい、ぐったりしてすぐ寝てしまう。
チアノーゼ(顔色が青白く、唇が紫色)

家庭で看る時のポイント

吐き気、腹痛のない時は冷たくない飲み物を少しずつ取るようにしましょう。
母乳は普通にあげてください。ミルクは軽い下痢なら特に薄める必要はありません。
無理をしてたべないようにしましょう。

冬季嘔吐下痢症(白色便性嘔吐下痢症、ロタウイルス感染症などと呼ばれる)などの時は、下痢が大量になるので、唇や口の中が乾き、目がくぼんできたり、げっそりして来ることがあります。この場合、水分が摂れていて、嘔吐などがなくても脱水傾向なので、すぐ受診するようにしましょう。